

巻頭言

Johns Hopkins氏と新渡戸稲造先生



北海道大学大学院理学研究科 教授
——— 西村紳一郎*

私は 1993 年 7 月から翌年 4 月までの 10 カ月間文部省在外研究員として米国 Johns Hopkins 大学生物学科 Yuan Chuan Lee 教授（糖鎖生物学）のラボで研究する機会に恵まれた。Lee 教授は着任したばかりの私に、この大学に留学した最初の日本人は実は新渡戸稲造先生であるということを教えてくれた。

1881 年に札幌農学校を卒業後 2 年間の開拓使御用掛としての札幌での任務を終えた新渡戸先生は、その後東京帝国大学で英文学と経済学を勉強されていたが突然、1884 年 8 月に退学して 9 月に渡米、Johns Hopkins 大学に入学している。1887 年にドイツに渡るまでの 3 年間米国に滞在して植物学や造園学などを学んだらしいがこの地での最大の収穫はなんとといっても Mary Elkinton 嬢との運命的な出会いであったように思われる。1891 年に Mary と結婚した当時 28 歳の稲造先生は母校である札幌農学校の教授として帰国、北海道で二人はその後に控える波乱万丈の人生のスタートを切ることになる。

新渡戸先生が留学した Johns Hopkins 大学は 1876 年に Maryland 州 Baltimore 市の大富豪で慈善家として知られる Johns Hopkins 氏の寄付によって設立された。二つの Family name（Johns 家と Hopkins 家という名字）がドッキングしてそのまま彼の妙な名前になった理由はともかく、英国系移民 3 世である Johns Hopkins 氏は弱冠 17 歳ですでに商人としての才覚を発揮、食糧品店や雑貨店の経営からスタートした事業を次々と成功させて莫大な富を築いた。米国初の鉄道として知られるボルチモア オハイオ鉄道の大株主だった Johns Hopkins 氏は 1847 年にはこの鉄道会社の最高経営責任者の地位に就くことになる。親友で慈善家として有名な George Peabody 氏の影響もあって生涯未婚の Johns Hopkins 氏は 1873 年 12 月 24 日に 79 歳で死去する 6 年前に彼の全財産（約 700 万ドル）を Baltimore 市に病院と大学を設立するための資金として寄付する事を決めていた。同じ頃やはり民間人からの寄付金によって設立された Harvard 大学、Princeton 大学、Cornell 大学の予算がそれぞれ 250 万ドル、47 万ドル、48 万ドルであったことを考えると Johns Hopkins Hospital と Johns Hopkins 大学への寄付金は言うまでも無く破格の金額であったことを物語っている。当時 Baltimore 市内では健康状態の悪い多くの孤児たちや貧困層が病院にも行けずに悲惨な生活を送っていたが、このことに深く心を痛めていた Johns Hopkins 氏は病気で困っている全ての人たちが訪れることのできる立派な病院とそこで働

* 当研究所参与

く医師や看護婦を育てるための大学の必要性を強く感じていたのだろう。Johns Hopkins 大学ではお金が無くて大学に行けない優秀な子供たちに対する返還義務の無い奨学金制度も用意されていた。病院・医学部に続いて数学，化学，動物学，造園学や農学などの自然科学系の学科や哲学，言語学，歴史学，政治学などの人文・社会科学系の学科が次々と設置されて初期の Johns Hopkins 大学が出来上がったちょうどその頃に新渡戸先生がこの大学に留学したのである。

Johns Hopkins 氏という一個人が築いた財産の寄付によって作られた全米 No.1 の新しい大学で新渡戸先生は何を学んだのだろう。札幌農学校の教授に就任した新渡戸先生は在任中に遠友夜学校（Ragged School）と呼ばれる学校を作っている。この学校はお金が無くて学校に行けない恵まれない子供たちのための学校で札幌農学校の教官や学生たちのボランティアで運営されていたという。その後第一高等学校長，東京帝国大学教授，東京女子大学初代学長などを歴任した新渡戸先生は 1920 年に国際連盟事務次長に就任，1933 年 10 月 15 日滞在中のカナダにて，全人教育と世界の平和のために捧げた 71 年の生涯に幕を閉じた。Johns Hopkins 氏と新渡戸稲造先生はそれぞれ全く異なる人生を歩いたのであるが，世の中の弱い立場にある者や恵まれない人々を思う優しい心とそれを具体的に表現するために必要な強い意志と実行力を持っているところがこの二人の偉人の共通点である。二つの異なる個性が蒔いた二粒の種。一方は今や数多くのノーベル賞学者を輩出する世界に冠たる大学にまで進化して世界中の科学者が常に注目する生命科学研究拠点として，他方は世界平和の原点あるいは国際政治の規範とも言うべき崇高な精神・哲学の源流としてそれぞれの大きな花を咲かせている。

大学は人々のために何をしなければいけないのか？どのように変わってゆくべきなのか？私たちは今一度原点に帰って考え直す必要に迫られている。19 世紀後半のほぼ同時期に建学された札幌農学校と Johns Hopkins 大学。北海道開拓という国策の一環として設置された札幌農学校とたった一人の慈善家の寄付により設置された Johns Hopkins 大学。現在，Johns Hopkins 氏の遺志を継いだ多くの後輩たちは最高の形で故人の期待に応え続けている。開学からの約 130 年の間に大きく水をあけられてしまった現在の北海道大学が Johns Hopkins 大学に名実ともに追いつくためには現状を認識する謙虚な姿勢と世界の頂点を目指すためのひたむきな努力を惜しんではいけない。そうすれば誰もが認めるグローバルなオピニオンリーダーとして世界中の人々の心を動かすようなインパクトのある研究成果を発信できる日が来るに違いない。



新渡戸稲造直筆の「Boys be ambitious (少年よ大志を抱け)」(北海道大学学長室)